平成３０年度白石市まちづくり交付金事業実績

平成３０年度に一次募集で採択された白石市まちづくり交付金事業１６件の事業実績について報告します。

□沢端川周辺環境美化整備事業（沢端川の環境を守り鯉を育てる会）

沢端川にはたくさんの鯉が放流され梅花藻が咲いており、多くの観光客が訪れる白石城や武家屋敷への散策路になっています。環境美化および観光振興に寄与するため、沢端川周辺の木々の剪定や樹勢回復など、環境整備を行いました。

▲剪定後の沢端川沿いの様子

▲支柱の設置

□鷹巣第５公園緑化植栽事業（鷹巣自治会）

第５次白石市総合計画白石地区まちづくり宣言の実現に向けて、市の「城花町しろいし」事業に賛同し、鷹巣第５公園の緑化事業に取り組みました。地域住民やホワイトキューブ来訪者からも花壇整備に関して高評価をいただきました。

▲多くの方が参加して植栽しました

▲水やりも協力して行い、綺麗に咲きました

□国道 113 号線ふれあい花壇等の美化活動（上郡山自治会館運営委員会）

国道１１３号沿いの「ふれあい花壇」に花を植栽し、安心して子ども達と大人が集う地域社会を形成しました。「協力そして協働」が形に現れ、市民体育祭においても、小学生等が元気に参加しており、広い年代で「顔」を知ってもらう効果が出てきています。

▲５月植栽(左)、１１月植栽(右)の様子。子どもたちが多く参加し、最後まで真剣に植栽しました

□美化・健康ウォーキング運動事業（越河カンナ花友の会）

カンナ花の植栽による地域の美化活動と、健康づくりを目的とした植栽場所をめぐるウォーキングを開催しました。当日は晴天に恵まれ参加者同士の楽しいウォーキングとなり、大成功の事業となりました。

▲除草・植栽の様子

▲綺麗に咲いた花を見ながらのウォーキング

□斎川夏まつり盆おどり大会（夏まつり実行委員会）

住民同士でより一層の交流を図り、地域の活性化に繋げるため、伝統ある夏まつりを開催しました。斎川小学校の閉校により、事前のグラウンド整備など負担が増え、開催が心配されたものの、委員の地域を思う気持ちが一つになり、素晴らしい夏まつりになりました。

▲組み立て中のやぐら

▲盆踊り後の抽選会

□きらり斎川笑アップ塾（斎川まちづくり協議会）

全住民アンケートの結果報告会を開き、若い世代の声を聴くべきだとの意見から、若い世代を年代別（U-29・U-49）に集めて会議を開きました。また、年長者を対象としたLINE講座を開催し、20代の若者が講師となり、年長者と若者の交流の場になりました。

▲年代別会議

▲ＬＩＮＥ講座

□「坂谷神楽」神楽堂修繕事業（坂谷神楽保存会）

大正時代からの民俗文化財である「坂谷神楽」において、神社での祭典開催に支障をきたしていた状態でしたが、神楽堂修繕事業により完璧な披露ができるようになりました。敬老の方々の前で神楽舞を実施することにより、懐かしんでいただき、地域に広く宣伝することができました。

▲修繕した神楽堂

▲神楽堂改修工事完成を祝う会

□神楽備品整備事業（榊流大町神楽継承会）

神楽備品整備事業により、白石市の民俗文化財としての地域伝統継承が継続でき、昨年５月に大阪城にて白石市を代表して、大町神楽を披露しました。老朽化した御幣等の神楽の備品の整備に交付金を活用しました。

▲購入した御幣

▲大阪城で披露した様子

□太鼓伝承事業（大鷹沢子ども太鼓の会）

楽器や衣装を更新することによって、会員のやる気も上がり、より多くの要請にこたえることができるようになった。また、出演要請の増加によって太鼓の運搬による劣化が懸念されていたため、既存の太鼓をケースで保護し、より多くの要請にこたえられるようになりました。

▲新調した太鼓ケースと鐘

▲太鼓を演奏している様子

□白川夏まつり（仮装盆踊り大会）（白川振興会議）

地区民の交流を深め、地域の活性化に繋げるため、「白川まちづくり宣言に基づいた取り組み」というところを前面に押し出し、参加者も楽しい夏の夜を過ごしていたようでした。舞台組立工事費、音響設備レンタル料、出演者謝金等に交付金を充てて夏祭りを開催しました。

▲スイカ割りに挑戦する子ども

▲やぐらを囲んで盆踊りを楽しむ参加者

□花と緑の地域づくり事業『花で癒そう上原を！』（上原自治会）

地区住民の交流を深め、地区内を花で癒す花と緑の地域づくりを推進するため、県道２５４号線沿いの花壇や地区内の交差点などに花を２回植栽しました。また、自治会内の全家庭のプランターにも花を植栽し、維持管理しています。

▲花壇に慣れた手つきで植栽する参加者

▲家の前のプランター

□地区内を花と緑で笑顔溢れる地域づくり（山根自治会）

地区内の環境整備と地区民同士の交流を深め笑顔溢れる地域にするため、花壇を整備し花を植栽しました。特に女性の参加者が多く、今後の活動に大きな自信になりました。植栽用花苗や培養土、プランタ等の購入に交付金を活用しました。

▲花壇整備を行い、たくさんの花を植えました

□小さい集落「せんのう沢」は、みんなで「笑顔」（芹沢自治会）

地区内を通る方々にも「花のある集落」を楽しんでいただこうと、全戸参加でハートのオブジェを設置し、そこに花を植栽しました。その後の水やりをはじめ、手入れ作業では、隣同士が協力したりしていました。

▲各家庭の前に設置したハート型のオブジェ

▲集会所前の大きなハート型のオブジェ

□深谷地区夏まつり大会（深谷夏まつり実行委員会）

地区民の融和と地区の活性化のため、舞台組立、仮設電気工事に交付金を充て、地域の人たちとの連携と協力により、深谷地区唯一の夏まつりを開催し、大勢の方に参加していただきました。

▲太鼓の演奏も行われました

▲盆踊りを楽しむ参加者

□検断屋敷まつり（小原地区活性化推進協議会）

地域資源の材木岩公園と検断屋敷を活用し、交流人口の拡大を図るとともに、小原の自然景観や地場産品をＰＲするために、年に４回、検断屋敷まつりを開催しました。季節に合わせた内容になっており、大勢の観光客や地域住民で盛り上がりました。

▲春の検断屋敷まつりのこいのぼり

▲秋の検断屋敷祭りのウッドボウリング

□柿渋を使った地域づくり（柿渋作りを楽しむ会）

柿渋作りを通して、他地域及び世代間交流をすることにより、小原地区の活性化に繋がりました。また、米袋バッグづくりや鍋敷きづくりといった参加者が増えるような幅広い内容も考え、実施いたしました。

▲柿渋作りの仕込み

▲米袋作りの様子

平成３０年度に二次募集で採択された白石市まちづくり交付金事業２件の事業実績について報告します。

□太鼓山車継承事業（東益岡自治会）

毎年５月に開催される「白石市民春まつり」で地区内外の子ども達が仲良く太鼓をたたく、自治会の太鼓山車を継承するために、経年劣化による彫刻飾りの再塗装等を行いました。

▲鶴の彫刻飾り

▲亀の彫刻飾り

□深谷地区の神社の名前・神社の由来看板設置と記念植樹（白石市深谷公民館運営委員会）

深谷地区の地域活性化と地域の歴史を次世代に伝承するため、地元の神社等の由来看板を２か所に設置し、記念植樹をしました。

▲看板取り付け作業

▲看板と記念植樹のハナミズキ